

V 「福山市学校教育ビジョンII」 ～ばらと教育のまち Version～

Q 2006年(平成18年)2月に「福山市学校教育ビジョンII」で示された内容が変わるのでしょうか。

A 「生きる力」の育成を中心に据え、「確かな学力」「豊かな心」「力量ある教職員」「市民から信頼される学校」の4本柱で、学校教育の質的向上をめざす内容に変わりはありません。各学校は、中期・短期経営目標の達成に向け、引き続き「学校力の強化」を図ることが必要です。

Q なぜ、「福山市学校教育ビジョンII」～ばらと教育のまち Version～ がつくられたのですか。

A “ばらと教育のまちをめざす全国水準の学校教育”への道筋を明らかにするために作成しました。子どもたちの「生きる力」の現状と課題、学習指導要領の改訂等、国の動向を踏まえ、教育委員会と学校が行う重点的取組み事項を明確にしました。また、推進するためのシステムを示しました。

Q 国内外の学力調査等から、「生きる力」で重視している事項に課題があると分析されていますが、福山市の状況はどうか。

A 全体的な状況は、国や県と同様です。基礎的・基本的な知識・技能の習得には一定の成果があります。しかし、読解力や記述式の問題に課題があり、学習意欲、規範意識や生活習慣の確立が不十分です。特に、体力の低下は著しく、新体力テストの国平均以上の項目率が全体で5.3%(小学校7.3%、中学校1.9%)であり、暴力行為発生率(全国の1.4倍)や不登校出現率(全国の1.3倍)に比べても、極めて深刻な状況です。I

Q 「知」が目目され続けていますが、「徳」と「体」のバランスが重要だと思いますがどうか。

A 子どもたちには、基本的な生活習慣を確立させるとともに、人間として最低限の規範意識を、発達段階に応じた指導や体験を通して、確実に身に付けさせることが重要です。体力は、人間の活動の源であり、健康維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっています。「生きる力」の重要な要素であり、「知」と「徳」の基礎となる「体力向上」の取組みの充実が必要です。全国学力・学習状況調査では「基本的な学習習慣や生活規律の確立と正答率には一定の相関関係があることが伺える」と分析されています。

Q&A

Q 各教科・領域を貫く言語活動の充実が示されていますが、具体的にはどうなっていますか。

A 言語は、知的活動(論理や思考)やコミュニケーション、感性・情緒の基盤であることから、国語科だけでなく、各教科等でレポート作成や論述を行うといった言語活動を指導上位に位置付けることが求められます。また、言語活動を支える条件として、教材の充実や読書活動の推進等も重要です。II

Q 「ばらと教育のまちをめざす…Approach」について説明してください。

A 2011年(平成23年)までに、4領域14目標数値の達成をめざします。そのための重点的取組み事項として、教育委員会19項目、学校11項目を設定しました。教育委員会は、「生きる力」育成の基礎となる3つの力である“習得・活用・探究”の視点を持って、各学校に応じた指導・支援をします。学校は、年間計画等へ適切に位置付けた確実な実施により、「子どもは、よく学びよく遊び健やかに育っている。先生は、自信と誇りに溢れ尊敬と信頼を得ている。校長は、学校経営の夢を熱く語っている」という、ばらと教育のまちが実現するものと考えています。III

Q システムの改善により、指導主事の学校訪問や教職員研修30%減となるようですが、教育内容等の充実には支障はないのでしょうか。

A システムの改善は、量から質への確実な転換を図るために行うもので、支障はありません。学校を中心にした三者(学校担当者・教科等担当者・教職員研修担当者)の役割と責任を明確にし、システム化することにより、継続的・系統的な指導・支援を可能にします。担当者として、『担当校の課題は担当者の課題である』との自覚と明確な指導プランを持ち、実践への適切な指導と評価・支援をします。IV

Q 今後のスケジュールはどうなりますか。

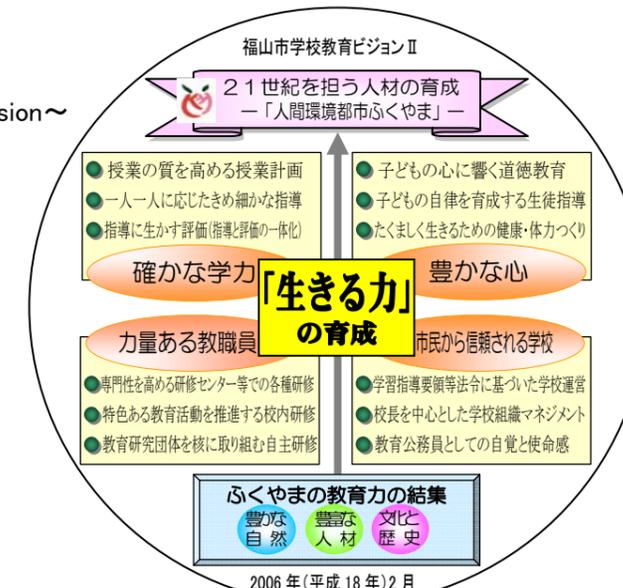
A 「教育委員会が行うこと」19項目について、来年1月中には提示ができるよう整理をしています。各学校においては、今年度の取組みの確かな分析を行い、「福山市学校教育ビジョンII」～ばらと教育のまち Version～を踏まえ、来年度学校経営計画策定に向けた準備をしてください。

福山市教育委員会
「福山市学校教育ビジョンII」～ばらと教育のまち Version～
2007年(平成19年)12月20日

ばらと教育のまちをめざす 全国水準の学校教育を



◆ばらと教育のまちの姿◆
子どもは、よく学びよく遊び健やかに育っている
先生は、自信と誇りに溢れ尊敬と信頼を得ている
校長は、学校経営の夢を熱く語っている



「生きる力」とは…
○基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
○自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
○たくましく生きるための健康や体力 など
中央教育審議会教育課程部会
「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」
平成19年11月7日

I 子どもたちの「生きる力」の現状と課題

確かな学力
○基礎的・基本的な知識・技能の習得は、個別に課題のある項目もあるが、全体としては一定の成果が認められる。
●思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題がある。
●学習意欲や粘り強く課題に取り組む態度に個人差が広がっている。
(教育課程実施状況調査:H15 PISA調査、TIMSS調査:H15 全国学力・学習状況調査:H19)

《全国学力・学習状況調査:H19》

	小学校				中学校			
	国語		算数		国語		数学	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
市	83.9	65.0	82.6	62.9	81.6	71.0	71.9	57.6
県	83.3	65.0	84.7	65.0	82.4	72.0	73.3	60.6
国	81.7	62.0	82.1	63.6	81.6	72.0	71.9	60.6

《「基礎・基本」定着状況調査:H19》

	国語					算数				
	全体	聞く	書く	読む	言語	全体	数計算	量と測定	図形	数量
小学校										
市	62.7	77.1	38.9	66.6	62.7	74.4	81.5	66.7	69.8	75.7
県	64.2	78.5	40.6	67.0	65.2	75.6	80.9	70.6	69.8	77.2

	国語					数学			
	全体	聞く	書く	読む	言語	全体	数式	図形	数量
中学校									
市	71.6	64.6	75.1	62.6	78.6	65.9	70.8	62.9	56.3
県	74.4	63.3	81.0	66.2	80.1	69.0	73.9	66.3	59.0

●体力水準が全体として低下している。
●積極的に運動する子どもとそうでない子どもに分散が拡大している。
(体力・運動能力調査:文部科学省調査:H18)

《新体力テスト:H18》各項目数値の本市状況

	全体		小学校		中学校	
	項目数(150)	% (項目率)	項目数(96)	% (項目率)	項目数(54)	% (項目率)
県平均以上	34	22.7	27	28.1	7	13.0
国平均以上	8	5.3	7	7.3	1	1.9

※ 単位:%

○ボランティア活動参加率上昇のような積極的側面が見られる。
[15～19歳:H5(38%)→H17(55%)] (内閣府世論調査H5とH17の比較)
●自制心や規範意識が希薄化、生活習慣の確立が不十分である。(義務教育に関する意識調査:文部科学省委託調査:H17)
●自分に自信のある子どもが国際的に見て少ない。
(高校生の学習意欲と日常生活調査 日・米・中3カ国の比較:財・日本青少年研究所調査:H17)

《児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査:H18》

	全体			小学校			中学校		
	暴力	いじめ	不登校	暴力	いじめ	不登校	暴力	いじめ	不登校
	市	0.44	0.30	1.53	0.18	0.18	0.60	1.05	0.60
県	0.36	0.29	1.32	0.07	0.17	0.45	0.98	0.55	3.24
国	0.32	1.06	1.19	0.05	0.85	0.33	0.89	1.49	3.01

《全国学力・学習状況調査:H19》
「物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある割合」

	全体		小学校		中学校	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
市	91.6	8.4	92.1	7.9	90.8	9.1
県(公立)	92.5	7.5	93.2	6.8	91.7	8.3
国(公立)	92.6	7.4	93.1	6.9	92.0	7.9

知 徳 豊かな心 体
○朝食を毎日食べる児童生徒の割合に増加傾向が伺える。
(全国学力・学習状況調査:H19)

《「全国学力・学習状況調査:H19」朝食を毎日食べている割合》

	全体		小学校		中学校	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
市	93.0	7.0	95.2	4.8	90.3	9.7
県(公立)	94.0	5.9	95.4	4.5	92.4	7.6
国(公立)	93.5	6.5	95.2	4.8	91.6	8.3

II ばらと教育のまちをめざす 全国水準の学校教育への5つのKey Word

～学習指導要領の改訂を踏まえて～

大胆に
中央教育審議会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」を
解釈すると…

- 「生きる力」の理念は、正しかった。
- しかし、成果は十分ではなかった。
- それは、「習得」と「探究」が繋がらなかったからである。
- 改善のために授業時数を増やし、「習得」したものを「活用」できるようにする。
- 「習得・活用・探究」で「生きる力」を育成する。

「生きる力」の育成

1 基礎となる3つの力
習得する力 (基礎・基本の知識・技能)
活用する力 (思考力・判断力・表現力)
探究する力 (課題解決力)

育成する場: 各教科・領域 → 総合的な学習の時間

2 言語活動の充実
3 記録・要約・説明・論述
4 体験活動の充実

各教科・領域を貫く言語活動の充実

＜国語＞
 ○漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表等による基本的な国語力の定着
 ○発達段階に応じた記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力の育成

＜理科、社会等＞
 ○観察・実験や社会見学のレポートで、視点を明確にして観察・見学した事象の差異点や共通点の記録・報告

＜算数・数学、理科等＞
 ○比較や分類・関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用した説明

＜理科等＞
 ○仮説を立て観察・実験の実施、その結果を評価しまとめて表現

＜音楽、図画工作、美術、体育等＞
 ○体験から感じ取ったことを言葉や歌・絵・身体等で表現

＜生活、特別活動等＞
 ○体験活動を振り返り学んだことの記述

＜音楽、体育等＞
 ○合唱や合奏、球技やダンス等の集団的活動や身体表現を通じた他者との伝え合いや共感

＜家庭、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間等＞
 ○体験したことや調べたことのまとめ・意見交流

＜道徳、特別活動等＞
 ○討論・討議等により意見の異なる人を説得、協同的に論議して集団としての意見集約

＜外国語＞
 ○情報を整理して正確に読み取る、書き手の意図をとらえる、内容的にまとまりのある一貫した文章の記述

学力の重要な3つの要素を明確化（改正学校教育法第30条第2項）
 「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」

5 体力向上の取組みの充実
 人間の活動の源、意欲や気力の充実と大きな関わり

III ばらと教育のまちをめざす全国水準の学校教育への Approach [2008年(平成20年)～2011年(平成23年)]

	確かな学力	豊かな心	力量ある教職員	市民から信頼される学校
目標数値	◇全国学力・学習状況調査の正答率 →(全国平均以上) ◇「基礎・基本」定着状況調査の正答率 →(80%以上) ◇「ことばの教育・キャリア教育」意識調査の肯定的回答率 →(100%) ◇特別支援の必要な児童生徒への個別的教育支援計画の策定 →(100%)	◇不登校児童生徒率 →(1.17%以下) ◇中学生の暴力行為発生率 →(0.77%以下) ◇体力テストの県平均以上の項目率 →(50%以上) ◇朝ごはんを食べる児童生徒率 →(100%)	◇福山市教職員研修効果の学校への還元率 →(100%) ◇校内全体授業研究の実施率 →(100%) ◇近隣校や教育研究団体と連携した授業研究の実施 →(100%)	◇学校評価と自己申告の連鎖 →(100%) ◇服務規律の厳正な確保 →(100%) ◇「ばらと教育のまち」をめざす広報 →(通年)
教育委員会が行うこと	○教育研究支援事業の改善・充実 ○「ことばの教育指導者養成講座」の拡充 ◎「ことば」基本テキストの作成、研修等で活用 ◎全国学力・学習状況調査の結果等を活用した授業改善の実践研究 ○「特別支援教育コーディネーター研修」の充実	◎「不登校・暴力行為」の取組み方法・実践例リーフレットの作成、研修等で活用 ○「学校教育相談コーディネーター養成講座」の拡充 ◎道徳教育推進校を拠点とした学校間交流の推進 ◎「体力テスト個人記録カード」小中学生への全員配付、活用方法の提示 ◎福山市食育推進月間の実施	○授業、校内研修、公開研究を支える教職員研修の再編・充実 ◎研修効果測定プログラムの開発・実施 ◎習得・活用・探究力を育成する「授業改善教員研修カリキュラム」の開発・実施 ◎重点施策説明(P)と評価・改善(CA)のための校長会(定例外)の実施 ○教育研究団体各研究会への積極的関与	○学校評価と自己申告及び外部評価の改善・充実 ○地域の教育力活用のための社会教育との連携促進 ○教委 HP 全面リニューアル・随時更新、学校紹介ガイドブックの作成・配付、学校展覧会等による戦略的広報 ◎学校運営・指導関係書類等の縮減
学校が行うこと	○学力調査改善計画の確実な実施 ◎ことばタイムの設定(朝の時間等で通年実施) ◎習得・活用・探究の視点を明確にした教育研究支援事業等の計画・実施	○規律3要素(挨拶・時間・環境)の徹底 ○体験活動(学校行事、中学校部活動等)の充実 ◎各校体力向上担当者の設置、体力向上対策の確実な実施	◎研修効果測定のための事前・事後アンケート等の実施 ○校内全体授業研修の計画・実施 ◎近隣校や教育研究団体と連携した授業研究の実施	○研修資料「教職員による不祥事の根絶」等の効果的な活用 ○公立学校の強みを活かした地域連携の充実
◎新規	“習得・活用・探究”の視点で貫く各学校に応じた指導・支援			
	「日本一宣言」を踏まえた年間計画等への適切な位置付け			

IV ばらと教育のまちをめざす全国水準の学校教育への System 質を求める”学校訪問”と”研修” Scrap & Build

	現状 2007年度(平成19年度)	改善 2008年度(平成20年度)から
教育委員会	学校訪問 ○要請 (1,048回訪問予定) ・各教科等担当者が調整→教科等担当者が訪問 ○担当校 (年3回) ・各学校主担当者が調整 →各学校主・副担当者と担当次長が訪問 ○実態調査 (年1回+随時)	○要請 (2007年度の30%減) ・各学校担当者が「要請+学校状況」を踏まえ調整 →学校担当者や教科等担当指導主事が訪問 ○担当校 (随時) ・各学校担当者が調整→各学校担当者等が訪問 ○実態調査 (年1回+随時)
	研修 ○福山市教職員研修 ・講座数:156, 実施回数:429回 ○福山市教職員研修事後評価 ・各講座実施後、アンケート(自己評価表)実施	○福山市教職員研修 ・講座数, 実施回数(2007年度の30%減) ○福山市教職員研修の効果測定・還元状況の把握 ・事前・事後アンケート等の実施, 評価・活用

◆Data◆
 教科別訪問回数 Best3
 1 算数 191回 18.2%
 2 道徳 162回 15.5%
 3 国語 157回 15.0%
 小中訪問回数
 小学校 714回 68.1%
 中学校 334回 31.9%

Systemを支える3本柱

私は、研修講座の確実なPDCAで、教職員の指導力向上を図ります！
 私の職務の中心は、担当校の経営・教育内容の充実です！
 私は、福山市の(国語)科プロデューサーとしての職責を果たします！